



カラー版特別号

CONTENTS	各地からの報告	
	北摂の洞穴性コウモリについて	浦野 信孝 1
	コテングコウモリの休息場所	本多 宣仁 5
	海外レポート	
	世界最小の幻のコウモリに会いました	宇崎喜代美・宇崎 真 6
	事務局から	
	コウモリの会総会報告	編集部 9
	インフォメーション	



各地からの報告

北摂の洞穴性コウモリについて

浦野 信孝

はじめに

大阪府の洞穴性コウモリの分布の報告はほとんどありません。大阪府北西部と兵庫県南東部をあわせた地域、すなわち大阪平野、京都盆地、亀岡盆地、篠山盆地、三田盆地、武庫川に囲まれた地域が北摂山地と呼ばれています(樽野, 1983)。北摂には明治から昭和初期に採掘され、そのまま放置された鉱山が残っており、そのいくつかがコウモリの休息場所として利用されています。北摂のコウモリについては沢田ら(1987, 1995)の報告があり、沢田ら(1987)では4地点でテングコウモリ2頭、キクガシラコウモリ2頭、同(1995)では1地点でユビナガコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリを報告しています。著者らはそれらの廃坑を調査し、広範囲に洞穴性コウモリの生息を確認したので報告します。



調査地と調査方法

調査地は図1、表1に示しました。調査は 写真1 箕面市川浦鉱山(2000.4.23)



図1 調査した廃坑の位置

2000年1月から12月にかけて、日中に直接坑道内に入りコウモリを確認しました。坑道の規模は、手掘りの小さな穴から、機械により掘られ十分立って歩ける大きな坑道を持つものまで様々です。落盤や水没、閉鎖により観察できない坑道も多く見られました。コウモリが多数見られた洞穴は、ディスタープに注意しながら1カ月以上の間隔をあけて複数回調査しました。2000年7月に繁殖を確認した豊能鉱山では繁殖を確認した時点で調査を中止しました。

12月から3月に見られたコウモリはその場所で越冬中と判断しました。観察は赤いセロハンを付けた懐中電灯を使用し、特に越冬期の観察は迅速に行い、カウントのみにとどめて写真撮影等はしませんでした。夏期に必要なときは捕獲し、バンディングしました。そのために大阪府からは平成12年度第21号、兵庫県からは第12-2号の鳥獣捕獲許可証の発行を受けました。

表1 調査した廃坑と結果

番号	地名	鉱山名	標高 (m)	坑道長 (m)	坑道数	観察数	観察日	キク	コキク	テング	ユビナガ					
1	箕面市上止々呂美	川浦鉱山	420	360	1	1	2000.1.3	7	50	1	-					
						1	2000.2.20	5	86	7	14					
						1	2000.3.19	6	39	4	約130					
						1	2000.5.14	-	50	-	約200					
						1	2000.7.20	2	-	-	-					
						1	2000.8.26	3	1	-	50					
2	箕面市温泉町	平尾旧坑	160	40	2	1	2000.11.26	7	50	-	-					
						1	2000.2.13	-	-	-	-					
						3	池田市畑	泰野鉱山	200	100	4	2	2000.3.11	4	-	-
						4						2000.10.1	2	-	-	
						4						2000.10.15	-	1	-	-
						1						2000.10.28	3	-	-	-
5	能勢町野間出野	能勢鉱山	200	15	1	1	2000.2.12	-	-	-						
6	豊能町木代	金山間歩	410	縦坑	1	1	2000.8.27	1	-	-						
7	豊能町吉川	桐山鉱山	300	100以上	3以上	2	2000.6.25	2	14	-						
8	豊能町光風台	天狗鉱山	150	20	2	2	2000.11.19	2	2	-	-					
						2	2000.5.7	-	-	-	-					
						9	豊能町吉川	西が谷	230	水没	1	-	-	-	-	
10	豊能町吉川	初谷	240	10以上	1	1	2000.5.7	-	-	-						
11	能勢町山田	豊能鉱山	450	250	5	5	2000.4.2	146	-	5	-					
						5	2000.4.9	79	-	5	-					
						4	2000.5.27	37	2	1	-					
						4	2000.7.16【注1】	75<	-	-	-					
						3	2000.11.26	10	-	-	-					
12	島本町浄土谷	不明	180	30	1	1	2000.1.23	-	-	-						
13	川西市国崎	小路旧坑	200	30以上	3	2	2000.6.4	2	-	-						
14	川西市黒川	勝星鉱山	330	13	1	1	2000.2.12	-	-	-						
15	猪名川町赤松	赤松鉱山	180	水没	1	-	2000.3.18	-	-	-						
16	猪名川町北田原	石谷	100	30	1	1	2000.8.26	1	-	-						
17	猪名川町銀山	多田銀山	160	50	2	2	2000.1.15	-	-	1	-					
						2	2000.2.12	1	-	-	-					
						3	2000.12.23	6	-	1	-					
18	猪名川町銀山	玄能間歩	200	100以上	3	3	2000.12.23	6	-	1						
19	猪名川町南田原	不明	200	30以上	1	1	2000.5.13	1	-	-						
20	西宮市武田尾	不明	120	21	1	1	2000.2.13	3	-	-	-					
						1	2000.3.18	3	-	-	1					
						1	2000.5.2	14	-	-	-					
						1	2000.9.30	11	-	-	-					
						1	2000.12.16	-	-	-	-					
21	西宮市生瀬	ダム試掘坑	100	50	2	2	2000.11.11	-	-	-						
22	武田尾～生瀬	JR 廃線トンネル			6	6	2000.2.13	-	-	-						

【注1】繁殖を確認し、調査を中止した

キク：キクガシラコウモリ、コキク：コキクガシラコウモリ、テング：テングコウモリ、ユビナガ：ユビナガコウモリ

結果と考察

北摂一帯 22 カ所の廃坑や人工洞を調査し、12 の地点でコウモリの生息を確認しました。コウモリが見られなかった洞穴は水没で調査できなかったもの (9.15)、極めて細く進入困難だったもの (10)、時期により生息情報があったもの (2. 大西私信、12. 西川私信) を含みます。乾燥した小さな洞穴ではコウモリが観察されないような印象を受けました。

箕面市川浦鉦山 (写真 1) や能勢町豊能鉦山 (写真 2) はいずれも 300m 前後の大きな坑道が残った、比較的新しい廃坑です。いずれも標高が高く、杉植林地に続く二次林に開口し多数のコウモリが観察され、豊能鉦山では 7 月にキクガシラコウモリの繁殖が観察されています。



写真 2 能勢町山田豊能鉦山、本坑入口 (2000.4.9)

キクガシラコウモリ

Rhinolophus ferrumequinum (写真 3)

北摂一帯、標高 120m から 450m の広範囲の廃坑で観察されました。箕面市上止々呂美の川浦鉦山、池田市畑の秦野鉦山、能勢町山田の豊能鉦山、西宮市武田尾の廃坑では冬眠期とそれ以外の季節、両方で観察されています。冬眠期の個体数がそれぞれの廃坑で変化しているため越冬にも生息地を変えていることが示唆されました。バンディングにより川浦鉦山と秦野鉦山間の移動が確認されています (直線約 4km、浦野未発表)。能勢町山田の豊能鉦山で繁殖が確認されました (浦野ら、2001)。キクガシラコウモリの繁殖は猪名川町の人工洞でも確認されています (浦野ら、2001、未発表)。



写真 3 キクガシラコウモリ 能勢町山田豊能鉦山 (2000.4.2)

コキクガシラコウモリ *Rhinolophus cornutus* (写真 4)

標高 150m から 450m の 4 カ所の廃坑で観察されました。箕面市上止々呂美の廃坑では多数の越冬を確認しています。池田市五月丘の廃坑は位置的にこの廃坑と近く (直線約 4km) 両方を行き来している可能性があります。箕面市の廃坑では夏期には一時的に発見数が減少しており、季節的な移動があるようです。繁殖に関連した移動かもしれません。

豊能町吉川の桐山鉦山、能勢町山田の豊能鉦山でも生息を観察しています。この両者とも今回調査した廃坑の中では規模の大きい廃坑で、坑道の長さや生息との関係があるのかもしれませんが。猪名川町銀山の玄能間歩も規模の大きい廃坑ですが今回の調査ではコキクガシラコウモリは発見できませんでした。この廃坑も複雑な構造を持つので未調査の坑道に生息しているか、坑内の温度や坑道の構造、周囲の生息環境がコキクガシラコウモリに適していないのかは不明です。



写真 4 コキクガシラコウモリ 箕面市川浦鉦山 (1999.12.18)



写真5 テングコウモリ 能勢町山田豊能鉱山 (2000.4.9)

テングコウモリ *Murina leucogaster* (写真5)

テングコウモリは樹洞性コウモリといわれていますが洞穴も利用するようです(阿部ら、1994)。我々の調査では4カ所の廃坑で生息を確認しましたがいずれも10月から5月の、秋から早春にかけての調査で記録されており、複数の記録は1月から4月に限られます。越冬のためこれらの廃坑に移動していると考えられました。本来の越冬期を過ぎた4月にも箕面市上止々呂美の川浦鉱山や能勢町山田の豊能鉱山で観察されましたが、これらの廃坑は標高の高い山中にあるので平地に比べ気温が低く、冬眠期が長いのかもかもしれません。

いずれの廃坑でもテングコウモリは入り口付近の、外気温の影響を受けやすい場所で観察されました。また、単独で冬眠しているケース、複数かたまって冬眠しているケース、キクガシラコウモリのコロニーに入り込んでいるケースなどが観察されました。冬期間でも観察数が毎月異なることから、テングコウモリは冬の期間でもねぐらの移動を行っている可能性があると思われました。また、冬期間以外はねぐらとして廃坑を利用していないように思われました。

ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus* (写真6)

一般的にユビナガコウモリは高速飛行型のコウモリで小回りが利かないので直線的な坑道を好むと言われています(沢田、1994)。そのため今回我々が調査した短い坑道や複雑に曲がった廃坑には生息しにくいと思われました。箕面市上止々呂美の廃坑は直線的に掘られた坑道が300m以上続き、生息に適していると思われました。かなり大きな集団を作る事が多く、箕面市でも同様でした。月によって観察される数が大きく異なっており、その理由は不明です。繁殖は確認できませんでした。また、冬眠にもこの坑道は利用していませんでした。西宮市武田尾の廃坑では越冬期の3月に1頭のみ発見されました。すぐ近くの人工洞で37頭の越冬集団が見つっています(2002、浦野未発表)。



写真7 ユビナガコウモリ 箕面市川浦鉱山 (2000.10.1)

おわりに

北摂一帯は古くから多数の鉱山が開発されては閉鎖されています。昭和40年代の多田鉱山の閉山を最後に稼業する鉱山はなくなりました。閉山後、坑道は埋め戻し閉鎖されるべきものですがそのまま放置された鉱山が洞穴性コウモリの貴重な生息地となっています。ダムの開発、住宅地の開発により消失した廃坑も多く、また、危険防止のため最近になって坑口を閉鎖する例も多くあります。坑口の閉鎖はやむを得ませんがコウモリの出入りは可能なような方法も考慮してほしいと思います。あわせて、回りの自然環境の保護もはかり、コウモリの保護につなげてほしいと思います。

最後に大阪のコウモリ調査のきっかけと御指導を下さった奈良教育大学附属小学校、井上龍一氏に深謝します。

(大阪のコウモリを調べる会：浦野信孝 藤田俊児 松尾淳一 西川喜朗 大西政之)

引用文献

樽野博幸 . 1983, 大阪市立自然史博物館 第 10 回特別展「北摂の自然」. 解説書 :1-3.

沢田 勇・西川喜朗・原田正史・井上龍一 . 1987, 北摂・丹波地方のコウモリ . Nature Study, 33 (9) : 3-4.

沢田 勇・井上龍一 . 1995, 大阪府箕面市のコウモリ . Nature Study, 41 (3) : 3.

浦野信孝・藤田俊児 . 2000, 大阪府能勢町で発見したキクガシラコウモリのコロニー . Nature Study, 46 (11) : 9.

浦野信孝・藤田俊児・松尾淳一 . 2001, 大阪で初めて見つかったキクガシラコウモリの繁殖コロニー . Nature Study, 47 (4) : 9-10.

阿部 永ら . 1994, 日本の哺乳類 . 東海大学出版会 : 067.

沢田 勇 . 1994, 日本のコウモリ洞総覧 . 自然誌研究雑誌 (2-4) : 53-80.

(うらの・のぶたか 浦野動物病院)



各地からの報告

コテングコウモリの休息場所

本多 宣仁

2001年8月27日岐阜県大野郡清見村でコテングコウモリ *Murina ussuriensis* の休息場所を見つけたので報告します。

コウモリフェスティバルの帰り道、岐阜県清見村のオークヴィレッジというところに立ち寄りしました。そこにある観察路を歩いていると、道脇の枯れてしおれたクズの葉が目にとまりました。葉を開くと、コテングコウモリが1個体包まれるように休息していました。そっと写真を撮ろうとしたら、この個体ははたはたと林に逃げて行きました。この枯葉の位置は地上1.5mくらいで、周りは落葉広葉樹林でした。葉の中には糞が1個と、爪でつけたような穴がいくつか残されていました。

私は以前(1997年)、昆虫屋さんから「葉に包まれているコウモリがいる」という話を教わったことがあり、それ以来各地でこのような休息するコテングコウモリを目撃しています。私が以前に目撃した個体は、クズのほか、ヤマブドウ、トチなど、いずれも長さ15cm以上ある、大きめの枯れてしおれた葉に、包まれるように休息していました(写真1)。時にはひとつの葉の中で、3~4個体が休息しているのを目撃したことがあります。

結構見つかるので、きっとそういう生態なんだと思います。でも葉の中で休むなんて、海外のテントコウモリみたいで興味深いです。(ほんだ・のぶひと 東京都小平市)



写真1 トチの葉の中で休息するコテングコウモリ(岩手県)



世界最小の幻のコウモリに会いました

宇崎喜代美・宇崎 真



写真1 キティタバナコウモリの顔

前から気になっているあるコウモリを求めてその居場所を突き止め、真近にご対面してきました。このコウモリはこれを発見した先生の名前をとって“Kitti”と言う名前が付いています。世界一小さい哺乳動物で（体調約4cm）翼を広げると約20cmくらい、体重約2gほど、特徴は顔がブタそっくりでレンコンを切ったみたいな鼻が顔の真ん中に付いています（写真1）。目は黒ごまの半分くらいでよくよく観察しないとみつきりません。耳はウサギの耳を少し丸くしたような大きな耳です。

体はふわふわの毛で包まれていてまるで小鳥の赤ちゃんようです。このキティタバナコウモリ *Craseonycteris thonglongyai* は世界中でタイのカンチャナブリにしかいないコウモリで、1974年に発見された新種です。ところがこの動物は絶滅の危機に瀕していて、世界で最も手厚く保護されなければいけない12種類の品種に属しているそうです（IUCN国際自然保護連合のレッド・データ）。

とにかく可愛くて、愛らしいのです。コウモリというとなにか気味が悪いと思っている人も多いかと思いますが、実際に見るときつと認識を新たにしたいと思います。それにとってもきれい好きで清潔なのです。我が家はこのキティちゃんの大ファンとなりました。タイは今冬が終わり少しずつ暑くなっていく季節なんですけど、今年の冬は良いとこなし、もううだるくらい暑い冬でした。

キティを探し求める日々もかげろうが100mくらい先にいつも立っているほど暑い天気でした。第二次世界大戦時に旧日本兵が森に残って洞穴を掘ったりして隠れ住んでいたところが、タイにはいっぱいあるんです。そんな洞穴をひとつひとつチェックして歩きました。米国をはじめとするコウモリ研究者らの調査によると、10年ほど前の時点で生息しているキティは150～2,000頭となっています。

3日間かけてようやく2個所の洞穴でおおよそ300頭のキティの生存を確認できました。

写真2 とても小さく愛らしいキティタバナコウモリ。足の指の先から毛が伸びているのが見える。



コウモリの洞窟にはいろんなものがあります。以前に行った洞窟（ラチャブリ県）は小高い山のふもとから100mほども深く、山の上に穴があり出入り出来るようになっていました。そこに、おびただしい数のコウモリが所狭しと押しくら饅頭になっていました。夕方には洞窟からいっせいに飛び立って行くのですが、空に黒い竜巻が巻き上げているようにコウモリの大軍が飛んでいるのです。なんと、全部のコウモリが洞窟から出終わるのには5時間もかかるほどの、物凄い数のコウモリです。



写真3 プタのような鼻、まさにプタバナコウモリ。

そこに入った後私は原因不明の高熱が何日も下がらず、ひどいめにあいました。なにしろコウモリ洞窟は細菌、ウイルスなどの宝庫です。地面の上はこれまたおびただしい量のコウモリ糞がカーペット状になっているし、その上を蛆虫やらゴキブリやらいろんな虫がウジャウジャはい回っていて一瞬気が遠くなりそうでした。「インディージョーンズ魔宮の伝説」、あれを思い出していただければイメージがわかると思います。足元には死んだコウモリなんかも落ちています。頭の上、前の方は人間の到来に驚いたコウモリがバタバタしていました。鼻がひん曲がりそうなコウモリ洞窟の臭いは二度と忘れられられません。

あの時のことを思い出すと今回どんな洞窟だろうと緊張していました。体調の悪い私がコウモリ洞窟に入るとまた病気になるのではないかと夫もサラシン（うちのスタッフ）も心配していました。でもキティの洞窟は以前のものとは全然違って、外からはコウモリがいるかもわからないほどひっそり、中も臭くありませんでした。洞窟は高いところにありました。足場も悪くずるずる滑ります。

入口に立つとひんやりした空気が感じられます。中に入っていくと30mほどで光が届きにくくなって、足元がよく見えません。相当大きな洞窟です。天上の一番高いところは十数mもあったでしょうか。高いところを懐中電灯で照らすと、キティではない大きいコウモリが逆さにぶら下がっています。

奥に進んでゆきますがそれらしいコウモリの姿が見えません。一番奥にしゃがんだら何とか入れるほどの穴がありました。その中に突入することにして、体を低くして穴にずるずると入っていくとしたら小さな小鳥かセミみたいなのが奥から出てくるのではないですか。

キティです。みつけました。懐中電灯で照らすと、壁の所にいっぱいぶら下がっています。驚いて何頭も私めがけて飛んできます。超音波で物にぶつからない筈のコウモリがぶつかってきます。200から300頭くらいいたでしょうか。顔はまさにプタさん、大きい耳、フアフアの毛で包まれた体は真ん丸です。こんなに可愛いコウモリがいたのかと私達は感激です。

今から10年も前に子供が逆さにお母さんにぶら下がっている写真が撮影されています。ちょうど逆肩車状態を想像して下さい。

この小さな穴には私と夫だけが入りました。サラシンはプロレスラーのように体が大きいので入れないのです。しばらく中に夫と入っていましたが、さすがにそこはコウモリの糞尿が多く臭いもします。小さな穴の中で地面に頭を低くしてしゃがんでいるので、まともに糞尿から立ち上る窒素系のガスかメタンガスでしょうか、夫が「息



苦しくなってきた」と言ったので穴から出ました。また出直すことにしました。

私と夫はタイにいる動物のことを常にウォッチしています。タイからの動物の密輸は後を絶たず、可哀相な動物がいっぱいいます。その多くのお得意様が日本なんです。以前ギボン（手長ザル）の調査をした時、子猿を1匹捕獲するのに家族等群れをなしている猿約9匹が殺されたと知りました。

スローロリス（猿）は手のひらに乗るほど小さくて動きも昼間はのんびりしていて日本人が好む動物ですが、夜行動物で昼間は動きが緩慢で捉まりやすいのです。捕獲の時密猟者は石のつぶてを使いますが、それで頭蓋骨にひびが入った状態で日本に来るものもけっこう多いときいています。

タイのサンデーマーケットに行くと犬猫だけでなく魚、鳥、イグアナ、ありとあらゆる動物が売られています。捕獲禁止の動物も含まれています。警察がやってきて取り締まりますが取り締まりの目を盗んで売買されていて悪徳業者は根絶されません。野生動物密輸の問題は本当に根が深く難しい問題なのです。（2001年3月4日記）

編集部注）本稿は、宇崎喜代美さんのホームページから、ご本人の許可、校閲の下、転載させていただきました。 <http://www.zorro-me.com/kiyomi3/010304.html>

2002年3月、宇崎真氏から、その後の状況をご連絡いただきました。

この1カ月の間にコウモリの糞を集めにきた人物がいることが判明しました。コウモリの糞は昔は鉄砲の弾薬作りに使われ（山岳のモン族など）現在でも農業の肥料として使われているのです。洞窟から洞窟を渡り歩きコウモリの糞を収集して売る人々がたまたまキティブタバナコウモリの洞窟に入って見つけたのでしょう。おそらく、スコップやバケツを使い複数の人間が洞窟内で丸1日作業したと思われます。

そのためか、キティブタバナコウモリが半減していました。昨年はいじめて出会ったときは二百数十頭、それが1年近くで400頭くらいに増えていて、見る度にとっても嬉しかったものです。ですからとてもショックです。このコウモリがどんなに貴重な野生動物であるかの意識はおそらく全くなかったでしょう。糞をねこそぎ集めた形跡ははっきり残っていました。願わくば、二度とこういう人間が入ってこないことを、と祈っています。

夕方6時半から7時までのあいだにキティブタバナコウモリは洞窟から外に飛び出していきました。文献ではキティの行動半径は1km、20分くらいでまた洞窟に戻ってくるとありますが、これは違うような気がします。赤外線カメラを使って個体のクローズアップも撮影しました。かなり旺盛な動きで、そろそろ繁殖のシーズンに入るのではという感じです。

現在調査を広げてほかの地域（サイヨーク以外）でも生息が確認できるかどうか追求しています。地元民のなかには「このコウモリの名前は知らなかった。網にかかった雌コウモリの胸

写真4 手の平に乗ったキティブタバナコウモリ。とても小さい。（撮影：水野昌彦）



に2匹の赤ん坊がくっついているのを見たことがある。間違いなく1匹ではなく2匹だった。それは雨季の最初のころ、多分6月頃だった。なんで赤い塊がこんなところに付着しているんだろう、と思ってよくみたら毛が生えていない爪にのるくらいの大きさの赤ん坊コウモリだった」と証言する人もいました。

これだけ希少な動物なのに、この国の保護策はどうやら全くといってよいほどなおざりにされている、という実感です。洞窟付近の住民も管理委員会のメンバーもキティブタバナコウモリのことを全く知らないままなのです。驚きです。しかし、現在の状況では不用意にキティの存在が明るみに出て地元民や観光ガイド、地元のお役所が注目したら、それを商売に結び付けようとする動きが出てきたり、利権が生じたりと、キティの保護には逆行する事態が生まれそうです。

(うざき・きよみ、うざき・まこと タイ国バンコク)

その後、2002年6月、コウモリの会有志と宇崎真氏とで、キティブタバナコウモリなどタイのコウモリの共同調査を行いました。その模様は次号で報告したいと思います。(編集部)



事務局から

コウモリの会総会報告

事務局

2001年8月26日(日曜日)コウモリフェスタ2001 in 郡上八幡の会場にて第7回コウモリの会総会が開かれました。

1 開会のあいさつ

2 事業報告 (2000.6.21-2001.8.7)

会誌コウモリ通信(第13号、14号)の発行、コウモリフェスタ2000in 広島(2000.7.8,9)の開催、コウモリ観察会実施ガイドライン制定(2000.7.9)、日本自然保護協会より助成金を受領(助成期間が終了しましたら、会計を報告します)、コウモリ保護基金の設立、西表島エコツアーに対するカグラコウモリ出産洞くつへの入洞自粛を森林管理署に要請、彩流社(出版社)への記述内容訂正の要請、新石垣空港建設予定地でのコウモリ生息洞くつについて、十分な調査実施の要望書を県に提出、コウモリの会10周年記念誌の編集業務

3 会計報告 (2000.6.21-2001.8.7)

●歳入

歳入計 502,285 円

内訳:前期繰越金 280,509 円、ポストカード売上 60,580 円、LAB 売上 4,740 円、バックナンバー売上 20,910 円、カンパジ売上 48,580 円、コウモリフェスタ2000 in 広島売店売上 75,475 円、会費 292,000 円、今期前期繰越金 280,509 円

★コウモリ保護基金 139,341 円

●歳出

歳出計 558,047 円

内訳:会報(第13号)制作、発送費 126,026 円、会報(第14号)制作、発送費 147,575 円、その他の郵送代(会の案内など) 27,640 円、電話、FAX代(コウモリ通信校正、会に関する打ち合わせなど) 7,933 円、カンパジ制作費 61,100 円、文具(茶封筒など)、他振込料など 10,074 円、コウモリフェスタ in 広島にかかった費用(コウモリ解説パネル制作、運搬費など) 27,699 円、コウモリフェスタ in 郡上八幡(総会で予算化した分。残額はサンパークランドさんからいただいた) 150,000 円

本年度繰越金 224,747 円



4 事業案

(1) 来年のコウモリフェスタ開催

2002年度のコウモリフェスタは、評議員の中川さんよりの山梨県富士吉田市周辺での開催の提案があり了承いただきました。

2004年度のコウモリフェスタの開催を新潟県柏崎市立博物館の箕輪さんより提案が在り、了承を得ました。

なお、同時に箕輪さんより博物館での展示のため、いつも各自が持ちよっているコウモリ関係のグッズを1カ月間無料での貸し出しを御願ひしたいとの依頼もありました。

さらに、博物館の資金でこの展示を記念した記念誌(図録)を発行したいのでコウモリの会会員の協力を御願ひしたいとのことでした。1種あたり2ページで写真を主体としたものを予定しているとのこと。写真については中川さんや向山先生が主体になるかと思いますが、すでに了解を得ているとのこと、コウモリの会としても出版に協力をしていくとのことでした。

中国の呉毅先生より、中国での開催を御願ひしたいとの提案がありました。2003年度は中国でとの、案もありますが今後実現に向けて検討していくと言う事で了解を頂きました。

(2) 会誌

今年度も2回発行予定ですが、コウモリフェスタ2001in郡上八幡の講演要旨集を発行する場合(現在この方向で進めています)、会誌は1回になるかもしれません。

(3) コウモリ保護基金について

今年度で総額139,341円集まりました。寄付をくださった方々、ありがとうございました。

保護基金と運営費は、別枠に考えております。保護基金の設立目的としては「今後、コウモリフェスタを会独自でも行えるための基金や、コウモリに関する問題がおこった場合の対応にかかる資金」としておりました。今後、必要に応じて評議員会で検討をして使用をする。会計報告は一般会計とは別途で行うことでした。

(4) 観察会後援

本年度の後援は乗鞍高原のクビワコウモリの観察会のみでした。他にも数件の依頼があったのですが、保険加入などでガイドラインに沿わない部分もあり、お断りした例もあります。今後、さらに呼びかけていく予定です。

(5) バードバンダーの方たちとの交流、情報交換について

総会後に話し合いを持ちました。

(6) Learning about Bats について

今後も発行を進めていく予定です。

(7) コウモリ関係の問い合わせなどへの対応体制について

今後さらに充実を図っていく事で了解を得ました。

(8) 10周年記念誌発行について

2002年発行にむけて、現在の状況を連絡し了解を得ました。

5 来年度予算案

★今期は歳入より歳出が5万円ほどオーバーしてしまっただ。コウモリフェスタ用予算を15万円とるのは少きつく、今後も会費やグッズ売上げ金は変動があるので、予備費(前年度からの繰越金)はなるべくそのまま繰り越していきたいと思ひます。そのため、コウモリフェスタ用予算は10万円が妥当と思ひます。

●歳入計 724,747円

内訳:前年度繰越金 224,747円、会費 300,000円、グッズなど売上 200,000円

(★コウモリ保護基金 139,341円)

●歳出計 724,747円

内訳:会報2号分制作費、郵送費 280,000円、通信費 60,000円、文具他 10,000円、カンパジ制作費 50,000円、コウモリフェスタ開催費用 100,000円、予備費(できれば次期に繰越する分) 224,747円

6 会則改正案

会則改正案の目的

- (1) 評議員会の役割及び権限等を明らかにする
- (2) 会計業務の公明さのため会計監査の設置
- (3) 以上のために関係する会則の部分の変更。

以上が会則改正の目的です。

「コウモリの会」会則改正案

〔旧〕

コウモリの会会則（1995年10月1日施行、2000年7月9日改正）

〔新〕

コウモリの会会則（1995年10月1日施行、2000年7月9日、2001年8月26日改正）

〔旧〕

第9条 「種別」 本会に次の役員をおく。会長1名、副会長1名、事務局長1名、編集委員長1名、他の評議員5名以上。

〔新〕

第9条 「種別」 本会に次の役員をおく。会長1名、副会長1名、事務局長1名、編集委員長1名、他の評議員5名以上、会計監査1名以上。

〔追加〕

第15条 「会計監査」 会計監査は、会の会計を監査し、総会または評議員会の際にその監査結果について報告をする。

（以後、第〇条を順次下げていく）

〔旧〕

第15条 「評議員会」 評議員会は会長、副会長、事務局長、編集委員長、評議員で構成し、会長が議長となる。評議員会は必要に応じて会長が召集し、会の運営方針等を審議執行する。

〔新〕

第16条 「評議員会」

(1) 評議員会は会長、副会長、事務局長、編集委員長、評議員で構成し、会長が議長となる。評議員会は必要に応じて会長が召集し、会の運営方針等を審議執行する。

(2) 評議員会は、「会計決算及び事業報告の承認と会計予算及び事業計画の承認、会則の改正」以外の決定権及び審議執行権を持つ。

なお、評議員会での決定及び審議執行事項については、次年度の総会において報告を行わなければならない。

(3) 評議員会の開催については、役員間のメーリングリスト（BATMAN）で実施する事ができる。

(4) 評議委員会及び役員間のメーリングリスト（BATMAN）には、役員の過半数の同意を得た一般会員をオブザーバーとして加える事が出来る。オブザーバーは、発言権を有するが、投票権は持たない。

(5) 評議員会は、会の運営方針等を審議執行する前に、会員間のメーリングリスト（BSCJ）において一般会員の意見を聞く事が出来る。

〔旧〕

付則 第1条 本会則は、2000年7月9日より施行する。

〔新〕

付則 第1条 本会則は、2001年8月26日より施行する。

会則改正を満場一致で承認いただきました。



7 役員改選 (以下のように承認いただきました。)

会長 山本輝正、副会長 松村澄子、事務局長 水野昌彦、編集委員長 三笠暁子

評議員 (50 音順) 赤澤泰、大沢夕志、大沢啓子、佐野明、中川雄三、橋本肇、原田正史、船越公威、丸山健一郎、向山満、安井さち子

新評議員として、箕輪一博さんに加わっていただくことになりました。

会計監査 林聡彦

8 新会長挨拶

今後も皆さんのご協力ご支援をよろしく御願ひ致します。

9 閉会の挨拶

B A T I N F O R M A T I O N

■コウモリ保護基金、募金をお願いします！

コウモリフェスタを会独自でも行えるための基金や、コウモリに関する問題がおこった場合の対応にかかる資金を会員の方々の募金で作るコウモリ保護基金を設立しました。一口いくらかでもかまいません。郵便振替用紙にてお振込をお願いいたします (郵便振替口座 00270-4-12189 口座名: コウモリの会)。なお、会費と同時に振込される方は、振替用紙の通信欄に「会費〇年分、コウモリ基金〇円」と明記してくださるようお願いいたします。コウモリ保護基金の会計報告は次年度の総会にて行います。

■コウモリの会 10 周年記念誌の制作作業が進められています

2000 年の総会で決まりました 10 周年記念誌 (2002 年発行予定) について、以下のように作業が進行しています。

編集委員 (五十音順、敬称略): 大沢夕志・大沢啓子・佐野明・三笠暁子・水野昌彦・安井さち子・山本輝正

スケジュール: 2000 年度 編集方針等決定・内容決定・執筆者依頼

2001 年度 原稿執筆・校正 2002 年度 印刷・発行

内容: 「活動の記録集」のものと「記念誌的なもの」の 2 冊を発行する。1) 活動の記録集

内容・コウモリフェスティバルの記録 (チラシ + 文章 + 新聞記事など) 執筆者: 1995、1996 年 (乗鞍) 「山本輝正氏、他」1997 年 (天間林) 「向山満氏、他」1998 年 (奈良) 「赤沢泰氏、他」1999 年 (美幌) 「山鹿百合子氏、他」2000 年 (広島) 「三笠暁子氏、水野昌彦氏、他」・コウモリの会活動の記録・会誌の総目次・発行物・その他

2) 記念誌的なもの

内容・ヒナコウモリを中心としたコウモリ保護活動記録 (向山満氏) ・クビワコウモリの保護活動記録 (山本輝正氏他) ・環境庁と各県のレッドデータブックにおけるコウモリ類の記載について (大沢夕志氏・大沢啓子氏・三笠暁子氏)

以上につきまして、現在、原稿依頼と準備が進んでいます。

■新刊案内 2 冊

「日本コウモリ研究史 - 翼手類の自然史」

前田喜四雄著、A5 判、201 ページ、3700 円 + 税

発行 東京大学出版会

東洋蝙蝠研究所理事長 前田喜四雄氏の、これまでのコウモリ研究を紹介した本。難しい専門用語は少なく、コウモリについての専門知識がない人でも十分楽しめる。

「コウモリ観察ブック」

熊谷さとし、三笠暁子、大沢夕志、大沢啓子著、B6 変形判、303 ページ、2700 円 + 税

発行 人類文化社 発売 桜桃書房

オールカラー、しかも海外のコウモリまで紹介している著書なコウモリ観察ガイド。豊富なイラストや写真で楽しくわかりやすく解説されている。

■BSCJ 参加募集とメールアドレス変更の場合の手続きについて

コウモリの会メーリングリスト BSCJ は、会員の方ならどなたでも参加できます。会誌や総会だけではなかなか会員の方々の意見を反映できません。少しでも意見等を聞くように (聞く体制を持ちながら) 会を進めたいと思っていますので、その点をご理解を頂き、ぜひ多くの会員に BSCJ へご加入していただきますようお願いいたします。参加方法 bat-request@nara-edu.ac.jp 宛に、subscribe とだけ書いたメールを送ります (HTML ではなくテキスト形式で送って下さい)。自動的に登録されます。なお、退会の時は同様にして unsubscribe です。登録をしたら bat@nara-edu.ac.jp 宛に自己紹介をメールして下さい。また登録後ご自分のメールアドレスを変更する場合は変わる前に必ず一度退会の手続きをとり、その後、新しいメールアドレスで再度入会していただくようお願いいたします。

■コウモリの会ではコウモリに関する情報を随時受け付けておりますので、お気軽に事務局にお寄せ下さい。また、原稿を下された方にはささやかながら会費 1 年分を無料にさせていただきます。また、会に文献を寄贈していただいた方々、本当にどうもありがとうございました。今後、いただいた文献をリスト化しコウモリ通信に掲載するとともに、会のホームページの文献紹介に順次掲載させていただく予定です。

■入会案内

ハガキ・FAX・Email (mizunobat@syd.odn.ne.jp) にて事務局までご連絡ください。入会の案内を郵送いたします。*年会費は 1000 円です。振込先は郵便振替口座 00270-4-12189 口座名: コウモリの会。

コウモリ通信 Vol.10 No.1 2002.8

(通巻第 15 号) カラー版特別号

●シンボルマーク 村上康成

●編集 山本輝正・三笠暁子・水野昌彦

[編集後記] 本稿にもふれていますが、今年の 6 月にコウモリの会有志 and 宇崎さんグループでタイ国コウモリ調査を行いました。キティブタバナコウモリだけでなく、珍しい painted bat という英名の美しいオレンジ色の蝶のような小さなコウモリも調査しました。こちらも珍しい種です。これから主にこの 2 種の生息地保護を日本とタイと共同で考えていけたらと思っています。(水)

発行 コウモリの会